

## No.2：夏の風物詩 ブックフェア～日本の展示 人気集める～（令和4年8月23日）

7月20日から26日にかけて、香港の夏の風物詩ともいえる「香港ブックフェア」が開催された。近年は、インバウンド（訪日外国人観光客）推進を目的としてJNTO（日本政府観光局）や日本の自治体が出展しているところであり、今回は、その様子をお伝えしたい。

香港ブックフェアは、香港で最大級のイベントである。本年度は700以上の団体が出展し、約85万人が来場した。

会場は香港島にある香港コンベンション&エキシビション・センターで、1、3、5階の全ホールを使い、1階は一般向け書籍、3階は児童向け書籍、5階はスポーツ、レジャー、お菓子と類の展示が行われた。

日本からは、在香港日本国総領事館とJNTOに加え、石川、兵庫、和歌山、福岡、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の8県と山陰・山陽地域、民間事業者であるJTB香港と香港角川の計13団体が出展し、5階ホールの一角で「ジャパンパビリオン」が形成されていた。

JNTOブースの前にはイベントスペースが設けられており、クイズなどの実施時には大きな人だかりができていた。また、土曜と日曜には多くのお客さんがジャパンパビリオンに立ち寄り、最終日を前にして各ブースに用意されていたノベルティがほとんどなくなるほどの盛況ぶりだった。今回、栃木県としては出展できなかったが、JNTOに県の観光パンフレット設置や観光動画放映を依頼し、栃木県の観光情報をPRできたところである。

日本へ旅行することを「返郷下（里帰りする）」と表現するほど、香港人は日本への旅行が好きである。しかしながら、香港では海外からの入境者に対する指定ホテルでの強制隔離措置が続いている。日本を含め海外へ気軽に行くことができない現実がある中で、こうしたイベントを訪れて日本を旅行した気持ちになっているのかもしれない。

香港政府は、海外からの入境者に課している最短7日間の強制隔離措置を今月12日から3日間に短縮し、11月までには全廃するとしている。全廃となれば、多くの香港人観光客が日本へ押し寄せてくることだろう。その際には、「里帰りの」香港人を栃木県で温かく迎え入れていただきたい。

（県香港事務所長 卯木啓之）



【JNTO イベントスペースでのクイズの様子】